

令和3年度 大阪府立寝屋川支援学校 学校運営協議会議事録 令和 4 年 2 月 17 日(木)

(1)概要

日時	令和 4 年 2 月 17 日(木)	
場所	大阪府立寝屋川支援学校(視聴覚室)	
出席者	会長	辻 行雄(L's College おおさか 校長)
	副会長	大槻 千春(大阪府立寝屋川支援学校 PTA 会長)
	委員	富永 光昭(大阪教育大学)
	委員	山崎 淳(寝屋川市立梅が丘小学校 校長)
	委員	猿橋 桂子(寝屋川市立あかつき・ひばり園 ひばり園園長)
	委員	上村 篤(株式会社ゲオビジネスサポート ストアコーディネーター)
	校長	福井 浩平
	准校長	阪本 友輝
	事務局	
	事務部長	石川 昌義
	教頭	吉村 晋治
	教頭	藤田 太郎(事務局長)

(2)議事

議 題	
① 進路指導の状況について ② 寝屋川支援シラバス作成について ③ 令和 3 年度学校アンケート結果について ④ 令和 3 年度学校経営計画評価及び令和 4 年度学校経営計画について ⑤ その他	
協 議 内 容	
① 進路指導の状況について	
安井教諭	進路指導の取り組みについて報告。
大槻副会長	これまで進路について2年生から色々なアセスメントや実習に取り組まれている。1年生から取り組まれることで、保護者としても将来を思い描くことができると感じている。今後も取り組みを継続させていただきたい。
② 寝屋川支援シラバス作成について	
東川首席	12年間を系統立てた教育計画であるシラバスの作成について報告。
山崎委員	教職員・保護者・子どもたちがいかに一つになれるかが大切。シラバス通信の発行で、共有されていくのは良いこと。一部の担当者ではなく、教職員みんなで作成していくことが寝屋川支援学校の工夫されているところ。常に ICT を使われているところはすごいと感じる。

富永委員	教科を発達段階と繋いで行く事が大切。(一般的な課題として)アセスメントと教科指導がつながっていない事がよくある。12年間を系統的に持っていくことが重要。実践を重ねる中で、発達段階など、より詳細に計画していってほしい。
③ 令和3年度学校に関するアンケート結果について	
西田首席	「学校に関するアンケート」結果と分析について報告
山崎委員	コロナ禍で、行事が実施できないこともあると思うが、高評価を維持しているところがすごいと感じている。
富永委員	ICT、オンラインの部分で、コロナ禍が終わったとして、今までと教育内容が同じに戻ってはいけない。寝屋川支援で、どう受け止められていくか。今後は、ポストコロナ(コロナ禍後)に向けての観点も入れていただきたい。「みんなの特別支援教育」への掲載をしているので、参考にしてほしい。
大槻副会長	PTA アンケートについて中学部についてはアンケートへの記述が少ないと感じている。学校教育への関心度が低いことが気になっている。
辻会長	12年間の中では中学部が、関心が低くなりやすい時期。小学部は学校教育のスタート、高等部は卒後の進路に関する事で、意識は高くなる傾向はある。
校長	中学部は心も体も成長していく時期なので、何らかのアプローチを考えていく必要もある。
④ 令和3年度学校経営計画評価及び令和4年度学校経営計画について	
校長	<p>学校経営計画の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に関するアンケートについて、取り組んではいたが、評価が伸びなかったのは、評価軸、項目が取り組みとずれていたのか、合っていた上で、教員が伸びたと言う感覚にいたらなかったのか、細かい部分が見えないことで、伸びが感じられなかったのかと考察している。課題として捉えていく。 ・来年度の重点としては、寝屋川シラバスや、個別の指導計画の様式統一など、学校全体として統一した内容に取り組んでいきたい。 ・地域の美化に取り組んでいきたい。 ・働き方改革、会議や業務に関してはかなり取り組んできているが、データ整理などで効率化を目指したい。 ・教員からの意見で、さまざまな項目が、改訂、新設されている。今年度よりも深めた目標設定がなされている。 ・達成できた項目は、目標から外しているが、重点目標ではないが、今後も継続して取り組んでいく。
准校長	<p>高等部学校経営計画の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の項目をブラッシュアップし、別途項目を新設した(HOP STEP JOB!な

	ど) ・地域支援・登録相談員で充実化。次年度は実際に取り組む。
猿橋委員	支援学校の見学に度々来させていただいて、様々な教材を拝見している。シラバスとも繋がっていくのかなと感じている。評価が下がっていると言われていたが、様々な工夫や、子どもの障がい理解の評価は高いと思う。学校への保護者の関わる機会はコロナ禍で減少しているが、その中でも十分取り組まれていると思う。
上村委員	シラバスという内容は初めて知った。内容は素晴らしい。取りこぼしがないように可視化。学習履歴がわかるという部分は効率化にも繋がっていくのではないかと感じる。アンケート 効率化などの課題について、メールでの連絡事項が分かりにくいという評価について具体的な内容を教えていただきたい。
西田首席	改善点、表題にわかりやすい重要度を示す言葉をつける。PDF が見られない方へのために文面の要約を先頭に載せるようにしているところ。
辻会長	受け取る側の環境の違いがあるところに難しさがある。
上村委員	メールについては、企業でも同じ悩みを抱えているが、私も思うところを実践されていると思う。実践検証の繰り返しだと思う。
上村委員	経営計画の参画の仕組みや熱意が素晴らしいと感じる。継続して取り組んでもらいたい。気になる部分、自己評価のシステムは評価の活用内容で変わってくるので、詳しく教えていただきたい。
校長	自己評価について、取り組み主体は分掌等になる。目標の設定基準は課題もあるが、現状の取り組みなどに基づいている。
上村委員	数値化できないものも言語化することが大切。取り組みが、伝わりやすいような評価基準があったり、他者が評価できるシステムなどがあたりすればと思う。
山崎委員	前回学校経営計画について紹介いただいた。令和 4 年度の経営計画を楽しみにしていた。ユーモアのある計画になっている。管理職目線だけではなく、教員、保護者、子どもの目線が盛り込まれていると感じる。サロンという部分は大切なこと。数値的には学校としては評価が出にくいところですが、積み重ねて取り組んでいってほしい。
富永委員	学校経営計画の報告について、校長先生が、熱意を持って取り組まれていることが表れていた。管理職目線になりがちなものを、先生目線、子ども保護者と繋が

	<p>る計画とされている。キャッチフレーズについては、若い先生が参加しやすい土壌。「ほめる、ほめる、ほめる」から「わかる、できる、ほめる」にキャッチフレーズが進化している。主体的な学習を踏まえると、「わかる、自らできる、ほめる」などに進化していったらと思う。教育実践の充実と、先生方の負担を考えると、ICT がポイントになってくると感じる。地域支援にオンラインが盛り込まれている。非常にメリットになっている。オンラインを最大限活用して、負担の軽減を考えていくと良いのでは、子どもたちを繋げていくこともできると思う。</p>
大槻副会長	<p>4年間参加させていただいた。参加することで、このように計画があり、協議をされていることを知った。他の保護者にもこのような取り組みをされていることが、もっともっと伝われば良いなと感じている。バスや、給食の懇談会では、感謝の気持ちがたくさん伝わっている。自分の子どもと担任の先生のことは話題になるが、学校の教育全体や、先生方の取り組みを頑張っておられることについてはなかなか伝わりにくい、もっと保護者に伝わればよいなと思う。</p>
辻会長	<p>学校の頑張りを委員の方々から評価を得ていると感じます。</p>
⑤ その他	
	なし